

2024年11月 下刊行  
旬 予定

新刊のご案内

「国葬」は、時代を映す鏡である！

原史料を精査し、明治から令和までの「国葬」をカバーした、初の本格研究

山川歴史モノグラフ 46

## 近現代日本と国葬

前田修輔 = 著

(上智福岡中学高等学校教諭)



国葬は、国費で行われる重要な国家儀礼であり、かつ民衆を巻き込むことのできる国家行事でもある。安倍元首相の「国葬儀」は、なぜ復活したのだろうか。

明治から現代まで国葬の変遷を通覧し、政治・社会との関連や、皇室葬儀との比較、法制度や宗教など多面的な検討を通して、その実態を明らかにする。

## 目次

## 序章 課題と視角

- 1 問題の所在
- 2 研究史の整理
- 3 本研究の構成

## 第一章 国葬への道程

- はじめに
- 1 維新期の公葬
  - 2 国葬の創成—岩倉具視の国葬—
  - 3 国葬の展開—島津久光の国葬—
  - 4 国葬の確立—三条実美の国葬—
- おわりに

## 第二章 皇室喪礼法制化の始動と宗教

- はじめに
- 1 岩倉具視による帝室制度整備の志向
  - 2 「国喪内規」の作成と欧州王室慣例の調査
  - 3 「喪紀令案」の作成
  - 4 「国喪令草案」「喪紀令草案」の作成とその影響
  - 5 皇室喪儀と宗教
- おわりに

## 第三章 帝室制度調査局による皇室喪礼法制化の進展

- はじめに
- 1 前期調査局の設置とその動向
  - 2 中期調査局における皇室喪礼法制化の議論
  - 3 後期調査局と喪礼関係法令案の再審議
- おわりに

## 第四章 国葬の「民衆化」

- はじめに
- 1 国葬礼遇の条件と主務官庁
  - 2 国葬への批判
  - 3 国葬と民衆
- おわりに

## 第五章 法制下の国葬

- はじめに
- 1 皇室喪儀令・国葬令の成立
  - 2 法制下初の国葬—東郷平八郎の国葬—
  - 3 戦時下の国葬
- おわりに

## 第六章 戦後の皇室喪儀と国葬論議

- はじめに
- 1 戦後旧憲法下の皇室喪儀
  - 2 独立前後の皇室喪儀
  - 3 国葬と栄典の法制化への試み
  - 4 昭和末期の皇室喪儀
- おわりに

## 第七章 国葬から合同葬へ

- はじめに
- 1 新憲法下の国葬
  - 2 非国葬という選択
  - 3 公葬と国民
- おわりに

## 終章 近現代日本と国葬

ご注文冊数

冊

番線印

11  
/  
11  
(月)  
新刊受注締切

※新刊配本に間に合いますよう、お早めのご注文をお願いいたします。

A5判上製 272頁 ISBN:978-4-634-52643-3 C3021 定価 6,600円(本体 6,000円+税)



山川出版社

TEL:03-3293-8131

※ご注文は、右記まで  
FAXをお願い致します。

FAX:03-3292-6469